

Japanese Association of Veterinary Anatomists

News letter

Number 12

日本獣医解剖学会報

Aug. 1998

**第126回
日本獣医学会**

八月二十一日(金)～二十三日(日)
酪農学園大学獣医学部キャンパス
 北海道江別市文京区緑町582

大会長・種池哲朗

日本獣医学雑誌七月号に詳しく報じられている様に、本年度秋期の学会(第一二六回)は酪農学園大学獣医学部を当番校として、大学構内を主会場として、8月21日より23日までの3日間開催される。酪農学園大学の獣医学科が学部化されて初の大会で関係者が総力を挙げて準備に当って居られる。

今回の大会も、ワークショッブ形式を軸にすえられ、トピック毎に横断的な編成を特色としているので、獣医解剖学会としてのプログラムは別掲の若手サテライトフォーラムと、海外の獣医学教育の現況を学ぶシンポジウムに限られる。

ただし8月21日の夕刻(17時30分)の動物の神経科学を語る会のように主として解剖学会関係の参加者による会合も予定されている。

またポスターセッションも各々に3分程度の説明時間と2分程度の質問の時間を設けてあるのが今回の特色であるので、

発表者もその準備が必要である。発表数が多くなるにつれ、国際学会でも、国内の解剖学会でも、ポスターセッションへのシフトが強くなる一方、このように短い口頭発表の時間を設けたり、セクション毎に座長がとりまとめを行う工夫もとりいれられている。獣医学会でも今回の試みが定着することになるのではなからうか。

また一般市民への公開を視野にいった公開講演会も定着してきた。今回の「野生動物と市民生活」も、本学会直後の野生動物医学会開催(8月23・24日於北大クラーク会館)と相俟って市民の関心と呼ぶと思われる。

解剖学の養老孟司教授の特別講演(22日16時(田)7時30分)も話題にははると思われ。

昨年度より初められた「若手サテライトフォーラム」は、今回は「獣医学領域に於ける免疫生物学」について別掲の二演題の発表が農工大松田浩珍、山口大木曾康郎会員によって行われ

る。前回の学会理事会で若手サテライトフォーラムに僅少なが財政的支援をすることが決定され、今後一層の発表が期待されている。

この他、環境問題への関心が高まっていることを反映して、公開シンポジウム(8月23日、15時～18時)「環境ホルモンが動物に及ぼす影響」が開催されることにも注目したい。

獣医解剖学会**総会のお知らせ**

時・8月22日セミナー開始前
 場所・中央館学生ホール

会員名簿発刊

平成8年4月に日本獣医解剖学会の会員名簿を発行した際に、2年後には新しい名簿を発刊するとしていたので、今年はじめより日大獣医解剖学月潮東教授に各教室が名簿を送付して準備がすすめられてきた。月潮教授によれば、現時点で原稿が

完了し、印刷にはいるので学会までに出来るということである。

配布後も、訂正、追加、異動があれば次の版に備えて通知をしていただく様お願いしたい。

獣医解剖学会**懇親会御案内**

既に各構座宛に酪農学園大学獣医解剖学教室より通知があったように、学会中に恒例の泊りがけの懇親会がひらかれ、現時点で99名(うち宿泊者84名)の申込みがある。念のため再び概要をお知らせする。

(場所)
 南幌温泉
 ハート&ハート

空知郡南幌町南9線西15番
 電話・011-386-1126

(送迎バス)
 8月23日 大学より迎えのバス(約15分)で行く。

8月24日 千歳線北広島駅まで送迎バスあり。
 (会費) 二二〇〇円(うち宿泊費六千円)

(連絡先) 江別市文京区緑町582
 電話011-386-1111 内線217
 (竹花)

8月22日—9時30分〜12時
若手サテライトフォーラム
中央館学生ホール
**獣医学領域に於ける
免疫生物学**

演題(1)「炎症性サイトカイン
としての神経成長因子」

演者・松田浩珍(農工大学)

神経成長因子(NGF)は神経細胞だけでなく、多種類の細胞に多くの作用を持つ。演者はNGFの機能に関して我が国の第一人者である。今回は、炎症時に皮膚の創傷部位で増加するNGFの役割に関して、最新の知見を中心に講演していただく。正常ならびに創傷治癒の遅延を認めるKK/T糖尿病マウスを用いて、創傷部位への局所的なNGF処置は上皮の再生の促進、肉芽組織の厚さ、細胞外基質の増加など創傷の治癒を促進させる。これは、NGFがその広範な生物学的活性を通して創傷治癒に貢献していること、さらにはNGFは糖尿病における創傷治癒の遅延を改善することを示す。

演題(2)「妊娠維持機構としての子宮NK細胞の重要性」

演者・木曾康郎(山口大学)

母子境界領域における免疫応答は妊娠の成立・維持にとって、決定的な要因の一つである。一種の同種移植片である胎子・胎盤が拒否されない理由のひとつに、妊娠子宮における免疫担当細胞の特異性が挙げられる。特に顆粒リンパ球(子宮NK細胞)は最も特徴的な細胞で、胎盤形成期に有意に出現する唯一の細胞であり、しかも種普遍的である。演者は子宮NK細胞に関して我が国の第一人者で今回は、これまでの成果に最近の知見を含めて、子宮NK細胞が胎盤の発達に決定的な役割、特に血管の新生・構築を担っていることを講演していただく。

獣医解剖学会名譽会員の推挙

名譽会員の推挙の基準について検討中であるが、8月23日の総会では次の三先生を名譽会員に御推挙することになった。御年令順に第10・11・12号となり、8月23日の総会で会長(林良博)よりプレートをお渡しする手筈になっている。

- | | | | | |
|-----------------------|---------------------|----------------------------|--|---|
| 第10号
山下忠幸先生(帯広畜産大) | 第11号
杉村誠先生(北海道大) | 第12号
阿部光雄先生
(酪農学園大学) | 日本獣医解剖学会理事
(任期1997年4月1日
〜2000年3月31日) | 林 良博(会長)
岩水敏彦
牧田登之(副会長)
九郎丸正道
山田純三(副会長)
佐々木文彦
西中川 駿
福田勝洋
月瀬 東(幹事)
岡野真臣
谷口和之
山野秀二
鈴木義孝
萬場光一
有嶋和義
和栗秀一
上原正人
橋本善春
日本獣医解剖学会監事
西田隆雄
木曾康郎
日本獣医解剖学会評議員
浅利将男
佐藤 元
尼崎 肇
柴田秀史
岩佐憲二
杉田昭栄
岩元久雄
関 真
江口保暢
滝沢達也
大島浩二
竹花一成
大森司紀之
醍醐正之
岡本敏一
遠山稿二郎
小川和重
内藤順平 |
|-----------------------|---------------------|----------------------------|--|---|

日本獣医解剖学会
ホームページ 開設!!
<http://val.vm.a.u-tokyo.ac.jp/va.html>

- | | |
|--|---|
| 小倉淳郎
鹿野 昶
神谷新司
川島由次
神田尚俊
北川 浩
北村延夫
木村順平
植原征治
権田辰夫
佐藤英明 | 那須哲夫
松元光春
眞鍋 昇
宮本 元
武藤頭一郎
村上隆之
森川喜夫
森友靖生
山本雅子
吉野峰生
渡辺 淳 |
|--|---|

定評! 解剖シリーズ 犬の解剖 アトラス B4変型判/200頁 定価21000円 橋本善春 監訳 牧田登之 監訳	新版犬の解剖学 B5判/960頁 定価31500円 望月公子 監訳	猫の解剖図説 A4変型判/130頁 定価13650円 牧田登之 監訳	組織と器官・ 走査電顕図譜 A4変型判/318頁 定価15750円 牧田登之 監訳	兎の解剖図譜 B5判/240頁 定価10290円 望月公子 監訳	ラットの 解剖図譜 B5判/230頁 定価23100円 望月公子 監訳	家畜発生学 B5判/386頁 定価13650円 牧田登之 監訳	マウスの 発生アトラス A4変型判/190頁 定価11550円 牧田登之 監訳	新版獣医組織学 A4変型判/360頁 定価15750円 牧田登之 監訳	家畜組織学 実習マニュアル A4変型判/158頁 定価4410円 山野・和葉・月瀬 他著	家禽解剖 カラーアトラス A4変型判/136頁 定価13750円 牧田登之 監訳	近刊予定 家禽 解剖学用語 B6変型判/約280頁 日本獣医解剖学会 編
											株式会社 学窓社 〒113 0024 東京都文京区西片2-16-28 TEL 03-3818-8701 FAX 03-3818-8704

「再編整備の旗は降ろさない」という大前提で獣医学教育の6年制実現後の整備が十数年も模索されてきたが、最近では国際的水準に達するようにと基準協会案がまとめられたことを一つのよりどころとして、第三次の再編機運がたかまつていることは周知のとおりである。運動当初からも、その後の経過でも、解剖学関係者が深くかかわってきているので、この時期に、獣医解剖学のスタンスをよく考えておくべきではなからうか。

獣医学科の再編整備問題の 獣医解剖学としての問題点

再編整備に真正面から立ち向わなければならないのは8大である。東大・北大・府立大・私立大など、大学にとっても重大問題であるが、まず東西4大学ずつの2群がどうするかが問題である。これをごく簡単に要約すると、東大グループは、東北大学に、西日本グループは九州大学にそれぞれ獣医学部を創設してもらうべく働きかけようということ、北大も独自でやってゆくと

いうことなのである。

そこでカリキュラムや講座編成を考慮することになるが、国際水準をめざすには、まず臨床を重視するべしとの大合唱である。従って定員増は禁句の苦が、つつい教官増、学生定員増を盛りこむ案が横行する。リーダー格に解剖関係者が多い割には解剖学関連講座の拡充という話はきかない。むしろ4大学が集っても解剖と組織の二講座に縮小するような流れを示している。分子生物学が全盛のこの世に、遺伝学・発生学・細胞学を積極的にとりあげず21世紀の獣医学の姿を描けるのであろうか。

臨床を重視するということが、細胞・組織学を軽視することのないよう、解剖学関係者はもつと注意深くありたいものである。とくに農学部から離脱することを前提とした再編整備の場合、何名かの教官定員を置いて出ること余儀なくされるかもしれない。その時に成立順位が一位の解剖学教室(講座)がまず対象になる可能性が高い。

オリジナル・獣医解剖学会編 獣医組織学刊行準備なる

二年越しで、訳本ではないオリジナル版の獣医組織学の作製を提起し、本学会の重要な活動項目として多くの会員の御協力を得てアンケート、企画、原稿作製と進んできた。明年春には上梓する予定で、現時点で原稿の最終整理にかかっており、印刷所に手渡す時期が迫っている。

教官数が不足の上、六年制教育で実習や講義の負担が他学科よりも格段に多い中で、研究以外にこのような仕事を分担することはめいめい大変であった。

理想像の論議かき消されて、基礎獣医学の根底である解剖学分野の削減の危険性を見逃してはならないのではなからうか。

は出来ない。

とくに部厚い教科書を次々と出版するアメリカの馬力はあなどれない。「細胞の分子生物学」を例にとれば、千頁余のもの4・5年毎に改訂版を出している。訳本も一年遅れで追いついている。それにワークブックや、コンピュータソフトも付けている。それに較べるとたかだかこれだけの原稿で四苦八苦した自分が情ない。国際化を声高に言うのは易いがまず自分の力量の国際化を問われる仕事ではあった。

人物往来

- ☆ 木曾康郎(山口大)
大阪府立大学講師から、公募のあった山口大学助教授に昇任し、一月より昇任した。
- ☆ 小川和重(岩手大学)
本年七月より一ヶ年の予定でカリフォルニア州サンジェゴのガン研究所に留学中。
- ☆ 大妻司紀之(北海道大)
哺乳類の生物学のシリーズの「②形態」(一六三頁)二六〇〇円 東京大学出版

会を執筆し七月末に刊行。

- ☆ 和栗秀一教授(北里大学)
8月5日-28日。
河南農業大学と長養農牧大学との共同研究のため訪中。
8月3日-6日中国畜牧獸医学会第10次動物解剖学及び組織胚胎分会(理事長・中国農業大学動物医学院解剖学鄧澤沛教授)にて招待講演。
- ☆ 一九九八アメリカ獣医解剖学会
ヴァージニア・マリールンドリジョンナルカレッジ Blacksburg, Virginia.
- ☆ 第14回国際電顕学会
8月31日-9月4日
メキシコ、カンクーン市
e-mail: icem@icem.intit.mx
- ☆ 第38回アメリカ細胞生物学会
サンフランシスコ
12月12日-16日
E-mail: aschbio@ascb.org

海外の関連学会の御案内

獣医解剖学会シンポジウム

「海外の獣医学教育の実情を聞く」

(最終回)

8月22日(土)
13:00 ~ 15:00

オーストラリアと中国の現状

私たちは世界の獣医学教育、特に獣医解剖学の現状をより正確に把握し今後の獣医学教育の改善に役立てるべく、これまで、アメリカ、韓国、ドイツ、インドネシアから講師を招き勉強を重ねてまいりました。今回はこの一連のシンポジウムの最終回として、オーストラリアのバース郊外にあるMurdoch大学のDivision of Veterinary and

Bio-medical Sciences (獣医学部相当)の助教で解剖学を担当し、野生動物の研究を意欲的にやっているKen Richardson博士 (Queensland大学獣医学部卒)と中国の北京市にある中国農業大学(旧北京農業大学)の獣医学院(獣医学部相当)の教授で解剖学を担当し、CAVIAの副会長をやられているDeng Zhe-Pei博士の二人にお話ししました。

二人には、サイズ的には米国より小さく比較的日本に近い規模であるオーストラリアでの獣医学教育の現状と、国際基準の点では日本と同じ立場にある中国の現状をそれぞれ紹介していただくことになっております。オーストラリアと中国での獣医学教育の現状、特に獣医解剖学教育の現状を正確に捉え、これまでの報告と合わせて、今後

我が国での獣医学教育、特に獣医解剖学の在り方について考える情報にして下さい。多数の参加をお願いします。(山田純三)

前回のインドネシアの獣医学教育(ポゴール大学エハラスクラ教授)の講演の要旨は来月号の日本獣医師雑誌に収録されます。前々回のアメリカと韓国についても同誌に掲載されていますので御参照下さい。

お願い

本学会では、教科書問題につづいて、獣医学教育の問題のシンポジウムを続けて来ましたが次回からは趣向をかえたいと思っております。新企画についてのアイデアを募集中です。よい知恵をお貸し下さい。

近刊予告

「家禽解剖用語」

学窓社

昨年の学会総会での決定に沿ってNotula Anatomica Aviumの第2版の用語の部分のみで名用語集を刊行することになった。前名大農学部教授渡辺徹先生の原案のもとに、十六大学の

家禽解剖学教室の諸会員の意見を求めとりまとめたものが、B6版260頁、予価5000円です。学窓社から今月末に発売される。ラテン語は岩手大学谷口和之教授に念入りに校閲していただいた。コメントを寄せていただいた以下の会員各位にもあつく御礼申し上げます。(敬称略)

高原 齊(九大)
柴田秀史(農工大)
藤岡俊健(名大)
保田幹男(名大)
木曾康夫(山大)
杉田昭栄(宇都宮大)
鈴木義孝(岐阜大)
利部 聰(山大)
松尾信一(信大)
森川嘉夫(府大)
田村達堂(広大)
岩元久雄(九大)

福田勝洋(名大)
植原征治(新潟大)
西田隆雄(日大)
鈴木 惇(東北大)
谷口和之(岩手大)

本書の刊行に当たっては、コネル大学のエバンズ名誉教授の紹介により、ハーバード大学の比較解剖学博物館のレイモンド・ペインタージュニア博士の骨折で版權を取得できたことを付記する。

編集後記

このニュースレターも昨年二月の第十一号を境に存続を検討することになり、昨年度は休刊したことは御承知のとおり。最近のように各教室間の連絡はほとんどe-mailで用が足りると、このような前時代的な印刷物による発信が必要なのかという疑問が出るのは当然であろう。事実この号の記事の情報も大半はe-mailによって集められたものである。

ただ学会として定期刊行物を出すことが最低限必要とされ、一方いゆる学会誌を創刊することも検討中とはいえ、一頁当り一万円相当の経費がかかる見積書を前に立ち往生の現況からいうと、このニュースレターに当分身替りを務めてもらう他はないのではないかとということになった。そこで、四月の理事会で今年度の2号分は副会長の牧田が、明年度からは同じく山田が担当することになった。

このような表向きの理由の他に、卒業生を主に最近ニュースレターが来ないことを問い合わせる会員もいることが、続刊する気分をさせたということが言える。

編集・牧田